

# 「平成30年度に実施した仕事」の振り返りシート

記入日 平成 31 年 4 月 10 日

仕 事 の 内 容	友好都市交流補助金事業			
担当部署・課長名	地域振興 課	市民協働 係	課長名	大法 努

この仕事は、どの【施策】の課題を解決するための手段ですか。	施 策 番 号	5 - 4	-
【施策名】 地域を越えたパートナーシップの確立	総 合 計 画 書 (ページ)	113	

予算名	款 2	総務費	項 1	総務管理費	目 12	地域振興費	事業 2	都市交流事業費
-----	-----	-----	-----	-------	------	-------	------	---------

1 この仕事の目的	<b>① 誰(何)を対象にしていますか。</b> ・交流事業補助：東大和市に在住・在勤・在学する小学生以上の者で構成されている団体(4人以上) ・宿泊事業補助：東大和市に在住する小学生以上	<b>① ①の対象数や量を、あらわすもの(対象指標)</b> 不明 (参考 市民の人数 平成30年1月1日現在 85,718人)
	<b>② ①をどのような状態にしたいのですか。[簡潔に]</b> 市民や市内団体が喜多方市へ訪問することにより、友好都市であることの周知やメリットを実感し、両市の市民レベルでの友好及び親睦が深まる。	<b>② ②の状態になった数・量をあらわすもの(成果指標)</b> 実際に友好都市交流補助金を利用した人数
	<b>③ そのために何をしましたか。</b> ①市役所1階喜多方コーナーや地域振興課窓口にて観光情報の発信や制度の紹介を行った。 ②市報にて、喜多方市観光情報、補助制度について掲載した。 ③うまかんべえ～祭や産業まつりのイベント時には、喜多方市の情報及び制度の紹介を行った。	<b>③ ③をどのくらい行いましたか(活動指標)</b> ①通年 ②12回/年 ③2回/年

		単位	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	平成31年度目標	平成32年度目標
2 指標の推移	対象指標	①の数値	人	不明	不明	不明	
	成果指標	②の数値	人	17	34	26	
	目 標	②の目標値	人				
		目標値設定の考え方	予算上における交流促進事業費の積算人数				
活動指標	③の数値	回	常時	常時	常時		

3 経費	事業費(実績)		円	40,000	86,000	68,000	※人件費の所要人数は、基本的には「人」で表わしますが、一時的な仕事については時間数での表示も可とします。その場合単位を「時間」に変更してください。 人件費(再任用職員以外) 年間単価は、8,244,000円 時間単価は、4,200円 で計算してください。 【算出根拠】平成29年度決算数値。(退職手当組合負担金、共済費も含む。)
	財源	一般財源	円	40,000	86,000	68,000	
		特定財源	円	0	0	0	
		(うち受益者負担)	円	0	0	0	
	人件費(目安)	所要人数(再任用以外)	人	0.1	0.1	0.1	
		所要人数(再任用)	人	0.0	0.0	0.0	
		職員人件費(再任用以外)	円	826,700	825,300	824,400	
	職員人件費(再任用)	円					
事業費+人件費		円	866,700	911,300	892,400		

この仕事における市の裁量 市の裁量は大きい

4 環境変化	この仕事の開始時期(開始年度)、何を目的に開始していますか。	平成5年に旧山都町と姉妹都市盟約を結んだことから、市民の自主的な交流を促進することを目的に、平成6年度より当事業を開始した。
	開始当初と比較し、状況の変化はありますか。	事業開始当時の補助対象は市内団体のみであったのを、平成11年に市民にも広げたことにより利用者が増加したが、平成23年の東日本大震災の影響で利用者が大幅に減少。平成24年度から東京都被災地ツアーが実施され、当事業と併用可とした。また、東大和市のイベントで喜多方市の物産販売を行ったり、PRに努めたが、利用者が減少傾向にある。

仕 事 の 内 容	友好都市交流補助金事業			
担当部署・課長名	地域振興	課	市民協働	係 課長名 大法 努

5 市民 等 の 意 見	この仕事に関して、平成30年度中に寄せられた市民・議会等の意見、また、市民・サービス利用者等の実態やその意識について <ul style="list-style-type: none"> <li>当制度を利用して喜多方市に行きたいが、距離が遠いため気軽に行けない。</li> <li>リピーターが毎年訪問している。</li> <li>補助額が少額。</li> </ul>
-----------------------------	--

6 市民 協 働	(1)市民協働の取組を行いましたか。ある場合は、取組手法の種類から番号を選択。（複数回答可）	
	取り組んだ	取組手法 ⑤ 【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換（広報媒体： ） ⑦後援・場の提供 ⑧その他（ ）
(2)平成31年度に向け、さらに適した協働の形態とするための「考え」又は「気付いた」点 特になし。		

7 課 題	(1)「平成29年度に実施した仕事」の振り返りシート 「7 課題(2)」の内容 当制度の利用人数は少ないが、リピーターが多い。いかに多くの市民に利用してもらうかが課題。
	(2)(1)の課題解決に向けた取組や、事務改善など、平成30年度に実施したこと。 市報に継続して喜多方市観光情報とあわせて補助制度についても掲載した。（年12回）
	(3)(2)を踏まえた今後の課題 鉄道や道路が整備され、以前より利便性は向上したが、まだ喜多方への東大和市からの距離や時間、交通費等の課題は解決できていない。また、当事業の補助額増も難しいため、引き続き、当制度を含めた喜多方市のPR活動を地道に行う必要がある。

8 今 後 の 方 向 性	引き続き、当制度を含めた喜多方市のPR活動を行っていく。		
	(2)上記(1)の改革・改善案を実現するために、克服すべき問題点、必要な調整・準備等 当制度の利用人数が少ないことの主な原因の一つとして、喜多方市までの交通（交通費が高額、時間がかかる）が問題。この問題は解決できないが、利用者数を増やすためには、喜多方市の良さを知っていただくよう、引き続き、喜多方市や当補助制度のPRを行っていく。		
	(3)改革・改善案による期待成果 上記(1)の改革・改善案を実施することで、成果面と経費面で現状からどのように変わりますか。		
	成果	成果を維持する。	経費

9	上半期終了時点の状況（平成31年9月末記入）

10	平成32年度に向けた方向性（平成31年9月末記入）